

安全・安心と高品質を確立させ、「三和らしさ」を追求する。
SANWA

京都から発泡技術の パイオニアとして 「京フォーム®」を世界へ



Kyoto's pioneer foaming technology
bubbles the World. Since 1965



「京フォーム」は三和化工株式会社の登録商標です。



京都駅八条口の看板

京都駅八条口と JR福井駅に巨大看板設置

お立ちよりの際は、是非ご覧ください。



JR福井駅北陸本線上り5番ホームの看板

三和化工株式会社
SANWA KAKO CO., LTD.

【関西支店】〒601-8103
京都市南区上鳥羽仏現寺町 56 番地
TEL.075-671-5200 FAX.075-671-5133

【福井工場】〒910-3138
福井県福井市石新保町 28 号 67 番地の 1
TEL.0776-85-1806 FAX.0776-85-1678

【本社】〒601-8103
京都府京都市南区上鳥羽仏現寺町 56 番地
TEL.075-671-5430 FAX.075-671-4495

【中部営業所】〒450-0002
名古屋市中村区名駅 3-12-5 (竹生ビル別館)
TEL.052-561-4068 FAX.052-561-4790

【生野工場】〒679-3311
兵庫県朝来市生野町真弓 373 の 66
TEL.079-679-4405 FAX.079-679-4406

【関東支店】〒104-0061
東京都中央区銀座 1 丁目 20 番 17 号 押谷ビル 5F
TEL.03-3567-0531 FAX.03-3567-0535

【九州出張所】〒819-0015
福岡県福岡市西区愛宕 2-16-24 愛宕レジデンス 502 号
TEL.092-836-6551 FAX.092-836-6552

【石岡工場】〒315-8539
茨城県石岡市柏原 4 番 4
TEL.0299-23-6631 FAX.0299-23-9867

京FOAM

vol. 1

2017年10月23日発行

通巻 76 号

発行/三和化工株式会社

〒601-8103 [本社] 京都府京都市南区上鳥羽仏現寺町 56 番地

TEL.075-671-5430
FAX.075-671-4495

<http://www.sanwa-chemi.co.jp/>

vol. **1**
2017 October
三和化工株式会社

COMPANY NEWSLETTER
京FOAM



創刊号

特集/デザイナーとの

コラボレーションでみえる 世界クラスの可能性

第三創業に向けて一人ひとりが 自分に挑戦しよう

三和化工株式会社
代表取締役社長

吉田典生

Norio Yoshida

平成29（2017）年10月1日、三和化工株式会社の第54期がスタートしました。これを機に当社では今までとこれからを変えようとしています。所謂、「不易流行」で様々なことに挑戦して行く年が来年2018年となります。この『京FOAM』は今まで『三栄会だより』として三栄会会員の皆様と社内を繋ぐ情報誌として四半期ごとに年4回発刊して来ましたが、小誌『京FOAM』は三栄会の会員様に限らず当社のステークホルダー様にお読み頂ける情報誌になる様発刊することに致しました。当面は従来の『三栄会だより』に近い内容になるかも分かりませんが、当社の現状を分かり易くコンパクトにまとめた形にして行きたいと考えています。そして、発刊を1月、7月の年2回にして行きたいと考えています。今回の『京FOAM』創刊号は従来の『三栄会だより』からの切り替えの為に発刊致しました。ここまでで従来からお読み頂いていた皆様と新規でお読み頂く皆様にも『京FOAM』発刊の経緯がお分かり頂けたでしょうか。小誌の題名である『京FOAM』は当社発祥の地、京都を意識して商標登録している「京フォーム」から来たものです。当社が発泡体のパイオニアとして長年作り続けている発泡体が、世界の京都を代表するMade in Kyotoの発泡体の総称として親しんで頂ける様にして行きたいと考えています。

さて、第54期のことをご説明する前に9月30日に終了しました第53期の状況について一年間を振り返ってみたいと思います。お陰様で第53期の売上高は49億円余（三和化工単独）となり、48期以来6期連続で増収を達成することが出来ました。然しながら、この一年は今までとは違い上半期は主力製品で納期遅れを頻発させ、「三和らしさ」を発揮できなかったことは大きな反省点でした。しかし、当社の弱点と言いますか、モノづくりの実力を知る良い機会になりました。一年間の販売動向を思い返すと先ず前半は自動車のモデルチェンジの影響を受けて緩衝材の荷動きが好調でした。そこには一昨年開設しました九州出張所の貢献も大きなものがありました。当社ではお客様専用グレードというものがあ、その専用グレードが既存客様、新規客様の両方で今年は売り上げを伸ばしました。また、今まで熱圧成形品という呼び方で主にポリエチレンフォームを使い、金型内で加熱冷却することによって3次元の成形品を販売して来ましたが、おかげでお客様層は限られており中々新規用途開発が進まないものから、思い切って「サンペルカ」や「オプシーラー」などと同じように専用のグレード名を付けました。それが「サンワ・プレス・モールド・フォーム」です。社内での呼び名は略して「SPMF」と名付けました。今までは「SPMF」の専用カタログもパンフレットもなかったので新規で作りました。その結果、当社の営業マンも既存のお客様も新製品として扱って頂けるようになりました。この事は大変有難いことで、予想を上回る新規の見積依頼を頂いたことは第54期

以降に良い結果をもたらすと信じています。

さて、当社は第54期を始点とし第60期を終点とする第9次中期経営計画「チャレンジ抱夢60」をスタートさせます。1965年10月1日創業以来、現在当社は第二創業期を歩んでいます。従って、これからの60期までを第三創業に向けての繋ぎ目の期間と位置づけ、全社共通での取り組むべきテーマとして次の4項目に挑戦して行きます。①発泡技術のパイオニアとして世界に貢献する。②「根幹経営」を確立させる。③「三和らしさ」に磨きをかける。④「BCP」策定によりステークホルダーからの信頼を高める。以上のことを目標として販売体制、生産体制、技術開発体制などの見直し、更なる強化に取り組んで行く所存です。上記の「根幹経営」という言葉は初めて使う言葉ですので少し説明させていただきます。現在当社は主力製品でありますポリエチレン発泡製品、合成ゴム発泡製品、「SPMF」など数本の本で三和化工と言う会社は構成されています。この一つひとつの木の年輪は歴史であり、枝の大きさは用途であり、木の大きさは売上高です。その土台の土の中には新技術づくり、新製品づくり、新市場づくりがあり、それらを創る人づくりは重要だというコンセプトが「根幹経営」です。この木を増やして大きく育てて三和化工の森づくりをして行くことを目標にしています。そして、第54期の経営基本方針は「第三創業に向けて一人ひとりが自分に挑戦しよう」を基本に於いて一年間事業運営を行ってまいりますので宜しくお願い申し上げます。

vol.1	ごあいさつ 三和化工株式会社 代表取締役社長 吉田典生	02
CONTENTS	特集/COLLABORATION SANWA×JIN KURAMOTO デザイナーとのコラボレーションでみえる世界クラスの可能性	04
	2017 NEW PRODUCT INFORMATION	06
	PRODUCT LINEUP	08
	経営四字熟語「人生経営」	10
	連載/知になる法律(1)	12
	会社紹介/明和産業株式会社	14
	三和NEWS/編集後記	15

COLLABORATION SANWA × JIN KURAMOTO

APOLLO

デザイナーとのコラボレーションでみえる 世界クラスの可能性

FOAM本部において、新たな取り組みとしてデザイナー様とのコラボによる製品開発を進めております。

デザイナー様とのコラボのきっかけは、“Material ConneXion Tokyo”によるもので、“Material ConneXion Tokyo”とは、Material ConneXionが展開する世界最大の会員制素材ライブラリーの1つです。ニューヨークを本拠地とし、世界各国の都市（ミラノ、バンコク、テグ、シューブテ、東京、ビルバオ）に拠点を構えています。世界各地の様々な業種から集められた素材が展示されており、さまざまな素材や加工技術を、製品、デザイン、開発および製造のイノベーションに結びつけるためのサービスと提案を行うコンサルティング会社です。

日本においては、株式会社エムクロッシング様が、先進素材のライブラリー “Material ConneXion Tokyo”の運営、素材提案などのコンサルティング業務を行われております。その一環として開催されたMATERIAL DESIGN EXHIBITION 2016では、デザイナーの倉本仁様をご紹介いただき、コラボによる製品開発をすることになりました。倉本様は、1976年兵庫県生まれ

で、家電メーカーの勤務を経て、2008年に東京目黒区にJIN KURAMOTO STUDIOを設立されております。

家電や家具、自動車、日用品等の製品において、国内外の有名メーカーにデザインをご提供されており、グッドデザイン賞をはじめ、様々な賞を受賞されている有名なデザイナー様であります。

コラボをして良かった点は、デザイナー様に素材の良さを最大限に引き出しながら製品化を目指していただけたところです。我々メーカーは、製品の新しい用途を模索する際に、製品が持つ弱点を念頭に置きながら消去法で用途を絞り込む癖がありますが、デザイナー様は製品自体をご覧になってから新しい発想をどんどん膨らませるため、素材の良さを引き出していただけます。

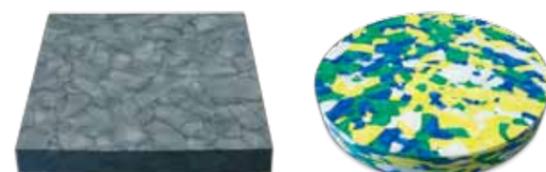
実は、もともとは「BOBBY」と呼ばれた1作目がありました。発泡体の持つ本来の質感を最大限に引き出すために、発泡体表面がむき出しの筒状に打ち抜き加工をしたものです。しかし厚みがある物については、まっすぐ打抜く事が技術的に難しく、より高品質の製品を作るためには方針転換が必要でした。

2作目として打ち出されたのが「APOLLO」でした。その名の由来は、姿が月面を目指したアポロ計画の宇宙船に似ているところからだそうです。表面の材料に使用されている生地は、kvadrat社の布です。BMWのコンセプトカー内装にも選ばれた高級生地です。色合いはやはりデザインのプロです。何とも高級感のある製品に仕上がりました。又、触り心地がとてもよく、つい手に取って触ってしまいます。

「APOLLO」は、「smaller objects」という欧州の家具のホームページで、「basket bowl」という名前で販売されています。

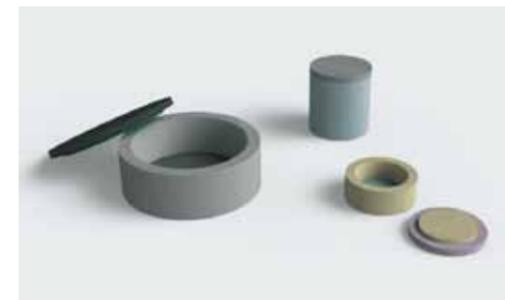
当初の開発コンセプトの用途は「フルーツボウル」ですが、使い方はアイデア次第です。もし、ご興味がありましたら遠慮なく弊社にご連絡下さい。

MATERIAL DESIGN EXHIBITION 2017では、株式会社トラフ建築設計事務所様とのコラボが決定しました。同社は、鈴野浩一様と禿真哉様により2004年に共同設立され、日経アーキテクチュア*「商空間アワード



ポリモック (通常)

ポリモック (カラーリング)



「BOBBY」イメージ図



「BOBBY」実際

2007」他多数受賞されております。建築のみならず、インテリアデザイン、展示会の会場構成からプロダクトまで幅広い活躍をされております。MATERIAL DESIGN EXHIBITION 2017では、なんと「ポリモック」に注目しての商品開発となりそうです。「ポリモック」と言えば、重量物の緩衝材というイメージが強かったのですが、デザイナー様から出た第一声は、「世界に同じものが一つもない!!」、「これだけでアートだ!!」でした。従来の考えから、発想の転換が必要だと感じました。開発段階のものをお見せできないのが心苦しいところではあります。色の組み合わせがとても良く、従来の「ポリモック」とは一味違うものになっております。引き続きデザイナー様と協業し、新たな発想で製品開発に取り組んでいきたいと考えております。

*「日経アーキテクチュア」とは、日経BP社が月2回発行している雑誌です。一級建築士をはじめ建設会社や行政など、建築界に携わる方々に、意匠・構造・施工などの専門領域だけではなく、建築界を取り巻く社会・経済動向から経営実務までの情報をお届けする建築の総合情報誌です。

「JIN KURAMOTO STUDIO」
<http://www.jinkuramoto.com/>



「smaller objects」
<http://shop.smallerobjects.com/>



製品に対するお問い合わせ ● お客様相談室 TEL: 075-671-1110 FAX: 075-671-5133 (担当者/渡邊 (友))

HDPE オブセル

新製品として開発中のHDPEオブセルについてご紹介いたします。

まずHDPEについてご説明します。HDPE（高密度ポリエチレン：High Density Polyethylene）は、通常のサンベルカ等で用いているLDPE（低密度ポリエチレン：Low Density Polyethylene）と同じくポリエチレンの一種となります。HDPEはLDPEと比べて、分岐の少ない直鎖状の構造を持ち、密度が高くなっているポリエチレンです。その構造から、HDPEの方が結晶度が高く機械的強度や耐熱性、耐薬品性に優れています。

今回はその利点である耐熱性の向上を活かすためにHDPEを用いたオブセルの開発をしています。また、近年は難燃性能を求められることが多くあり、このオブセルが様々な用途へ展開できるように難燃性能を付与しております。ここからは製品の特長を説明させていただきます。

まずは耐熱性能についてです。耐熱性能の比較は、加熱後の寸法変化率を用いて測定します。発泡体を一定の温度下で22時間加熱し、その後の収縮を測定しています。耐熱性があるほど、その収縮を抑えることができます。下記の図1が測定した結果です。

従来のオブセルはEVA（エチレン・酢酸ビニル共重合体：ethylene-vinylacetate copolymer）やLDPEを用いており、耐熱性能が低いものが多数でしたがHDPE



を用いることで改善しております。最終的には、120℃付近での耐熱性能が得られるよう開発中です。

次に難燃性能です。下記の図2は安全規格UL94の水平燃焼試験の結果です。

現在は難燃レベルがHBFですが、今後更なる難燃性向上を図り、HF-1基準を満たすよう開発中です。またノンハロゲンの発泡体のため、幅広い分野に応用できる可能性があります。

このHDPEオブセルですが、使用用途としては、現行のオブセルより耐熱性能が必要となる分野での使用や、鉄道、自動車部品など、耐熱性と難燃性が両方求められる分野での使用が考えられます。

今まで弊社ではHDPEを用いた製品はありませんでしたが、今後もHDPEを用いた発泡体の開発を行っていきたいと考えています。

	非加熱	80℃	100℃	110℃
HDPE オブセル				
オブセル LC-150				

図1) HDPEオブセルとLC-150の耐熱性

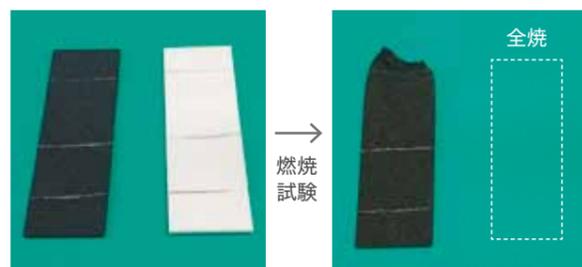


図2) HDPEオブセルとLC-150のUL94水平燃焼試験の結果

防カビ発泡体

開発中の防カビ効果のある発泡体についてご紹介いたします。

発泡体の用途としては、SPMF（熱圧成形品）による水回り製品が考えられますが、それ以外では、エアコンの結露防止や止水材、断熱材が考えられます。つまり、湿気の多い所、空気の流れが溜まる所、ホコリ等が多い所での断熱、吸音、止水性能等、ご要望の用途が見つかるかと考えております。これまで、抗菌性能のご要望は多くあり数グレード上市いたしました。防カビ性能に対するご要望はほとんどありませんでした。今回、弊社発泡体での優位性を見つける為、防カビ効果を付与しました。評価結果は下表の通りです。

通常品は発泡体の上にも菌の発育が見られ菌糸が広がっているのに対して、防カビ品は、発泡体の周囲に菌の発育が見られません。きれいなハロー（楕円部分4か所）が見られ、増殖を防いでいます。耐水試験品も同

測定方法	JIS Z 2911 カビ抵抗性試験 標準カビ5種類による評価 耐水性試験（SIAA試験法）後のサンプルも使用	
評価サンプル	通常品	
	防カビ品	
	防カビ耐水試験品1：50℃で16時間浸漬 防カビ耐水試験品2：80℃で32時間浸漬	
評価結果	通常品	発育部分の面積は試料の全面積の50%以上であった。
	防カビ品	肉眼及び顕微鏡下でのカビの発育は認められない。
	防カビ耐水試験品1	肉眼及び顕微鏡下でのカビの発育は認められない。
	防カビ耐水試験品2	肉眼及び顕微鏡下でのカビの発育は認められない。



じような効果が見られ、性能継続性が見られました。

独立気泡フォーム（サンベルカ）・連続気泡フォーム（オブセル）に防カビ性能を付与して販売してまいりますので、臭いやカビの増殖で困っているようなことがあれば、弊社防カビ発泡体をお試しく下さい。サンベルカのL-2520（30倍品）、L-2521NNN（30倍 難燃品）を上市予定です。不明な点などございましたら遠慮なくご連絡下さい。

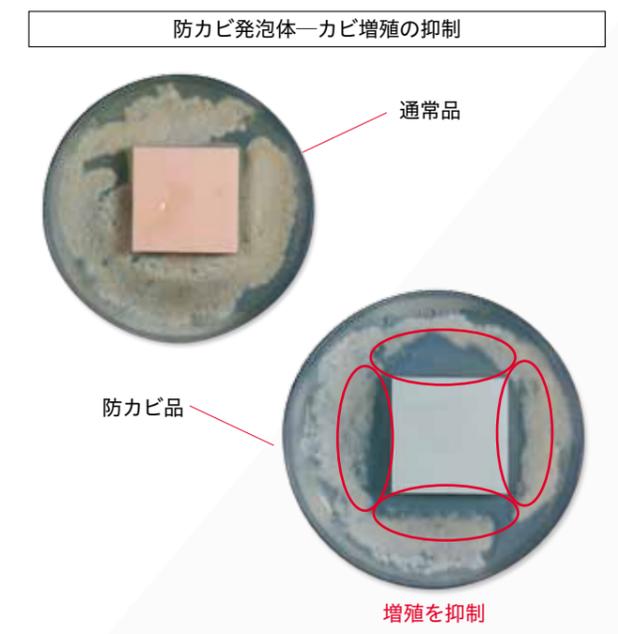


図) カビ抵抗性試験（カビ培養後、1ヶ月経過）

[化学架橋ポリエチレン発泡体(独立気泡)]

サンペルカ
SUNPELCA®



弾くセルボー君

■一般産業・土木建築・日用雑貨・医療福祉健康・家電・車両・自動車・海洋・スポーツなど多用途に使えます。

サンペルカは、化学架橋剤で架橋した独立気泡ポリエチレンフォームです。この技術は当社独自の発泡技術であり5倍の低発泡品から40倍の高発泡品までの製品が厚物として得られ気泡は極めて細かくソフトな感触と明るい美しさを持ち、難燃・高グリップ・高弾性等の高機能に富んだフォームです。



胃カメラケース内装材



シャンプーハット

[化学架橋ポリエチレン発泡体(連続気泡)]

オプセル スーパーオプセル
OPCELL® SUPEROPCELL®



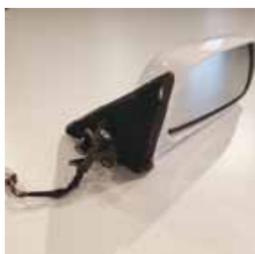
吸収セルボー君

■鉄道車両・自動車・エアコン・日用雑貨・航空機など広い分野で支持されています。

この技術は当社独自の発泡技術であり、連続気泡ポリエチレンフォームです。ウレタンフォームのような加水分解による劣化が無く、また変色劣化も少なく丈夫で長持ちします。新幹線などの車両部材からバイオ分野に至るまで広く役立っています。難燃・高吸音・高シールタイプ等機能性に富んだフォームです。



エアコンシール材



ドアミラーシール

[化学架橋導電性ポリエチレン発泡体(独立気泡・連続気泡)]

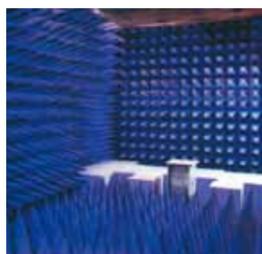
ニューペルカ
NEWPELCA®



導電セルボー君

■独立気泡タイプ、連続気泡タイプ、さらに電波吸収タイプと帯電防止タイプがあります。

カーボン練り込みタイプのため、他社の含浸タイプと違って性能が安定しています。プリント基板や電子部品の梱包資材や精密機器、光学機器などの緩衝材として用途は多彩です。さらにカーボンの脱離が無く作業環境を汚したり、製品破壊の原因を防ぎます。



電波暗室



ETC ゲート

[合成ゴム発泡体(半連続気泡)]

オプシーラー
OPSEALER®



柔軟セルボー君

[合成ゴム発泡体(独立気泡)]

ラバペルカ
RUBAPELCA®



遮断セルボー君

オプシーラー、ラバペルカは、合成ゴムを発泡させた柔軟な弾性のあるフォームです。わずかな力で容易に圧縮でき、凹凸にも追従します。半連続気泡タイプのオプシーラーと独立気泡タイプのラバペルカがあり、基材である合成ゴムの特性により難燃性、耐熱性、耐薬品性、耐油性、グリップ性、耐久性に優れています。



鉄道車両内空調ダクトの結露防止材、ダクトとダクトを繋ぐシール材



滑り止めシート

[再生原料ポリエチレン発泡体(独立気泡)]

エコペルカ
ECOPELCA®



ポリモック
POLYMOCK®



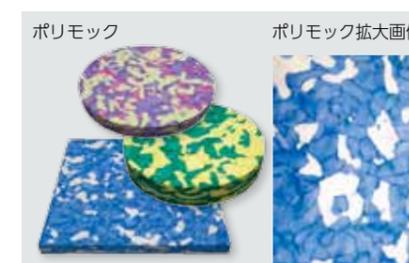
環境セルボー君

再生原料使用ではあるものの、物性は低下せずサンペルカと同等に使用可能。再生原料を50%以上使用したエコペルカはエコマークを取得しています。

ポリモックはポリエチレンフォームの端材を熱圧縮し再生したエコロジー製品で、ハニカム状を有し重量物緩衝性に優れています。



コンクリート目地



既存色はグレーですが、お客様のご要望によりこのように色合いは自在に変えることができます。

[ポリエチレン発泡体 熱圧成形品]

SPMF®
Sanwa Press Mold Foam



成形セルボー君

独立気泡ポリエチレン発泡体のサンペルカを熱と圧力で任意の形状に加工した成形品です。形状だけでなく、硬さ、色などご要望の成形加工品を、素材の発泡体から開発します。発泡体メーカーだからこそできる成形加工品、それがSPMFです。



ビート板・フットパイ



浴槽ピロー

経営四字熟語 「人生経営」



経営コンサルタント
三和化工(株) 顧問

竹原義郎

Yoshiro Takehara

PROFILE ● 竹原義郎 (たけはら よしろう)
経営コンサルタント。中小企業診断士。1938年生まれ。'67年、(株)タナベ経営入社、'90年、同社副社長となる。'94年、(株)創造経営研究社を創設、代表取締役就任。経営を経営科学の視点で捉え、「経営の本質は人間学である」をキーワードに、数多くの企業の経営診断、経営協力、幹部社員の能力開発を行い、全国の経営者から厚い支持を得る。

経営コンサルタントとしての歳月が50年を超えました。この間、私たちが体験した日本経済と経営を表現すれば「疾風怒涛」の四字でしょう。高度経済成長、ドルショック、オイルショック、リーマンショックという怒涛を乗り越え、世界第三位の経済力を確立して、現在は、人口減少時代の入り口に立ち、少子と超高齢社会という二律背反課題に呻吟しています。

2016年、日本人の平均寿命は、女性は、87.14歳。男性が、80.98歳となりいずれも過去最高を更新。男女とも世界二位の長寿国家となり、国家は、慶事に苦しむという新難題に直面しています。「これまで」にも幾多の難題を克服してきたように「これから」も卓越した経営能力を発揮し、この難題を解決できるだろうか……。

「経営とは、よくする」ということです。国家経営、企業経営、家庭経営、人生経営と多彩だが、『よくすること』が共通要素です。そのカギは、人生経営にあります。

1 ヒトは、自らの「人生経営者」である。

百寿者が6万人を超えたと聞く。健康百寿者とは、超優良人生経営者といえる。ヒトは、男女を問わず、誕生とともに生涯時間を与えられている。1年間は、8,760時間、10年間で87,600時間、100年間で876,000時間である。平均寿命の持ち時間は、女性で763,346.4時間、男性は709,384.8時間となる。人生経営という発想は、経営コンサルタントとしての使命感から生れた。顧問企業によくあって貰いたい。存在価値を確立し、存続して貰いたい。さらに、貴重な生涯の手持ち時間を傾注する社員と呼ばれる一人ひとりに成就感、達成感、満足感を体感して貰いたい。

「コンサルタント」とはヒトがつけた名前である。ヒトとは、神がつけた名前である。したがってコンサルタントである前にヒトとしての自覚がなければならない。この自覚、自省が人生経営者論に発酵し、『人財企業のヒトづくり経営』に熟成した。ヒトは人生の経営者である。

2 「人生経営」には、3つの基軸がある。

「日日是人生」「人生是経営」「経営是創造」の3つは連語である。相互に関連して、人生経営を支えている。どれが欠けても成立しない。

(1)「日日是人生」とは、時間価値を知ること。毎日、毎日の積み重ねが人生であるという自覚をもつところから人生経営が始まる。万人が共通して持っている生涯時間を天与の財産と自覚し、毎日、毎時をムダにしない。その差が人生経営の優劣に繋がることを学んだ。

筆者の経験知を要約してみよう。平成6年(1994)の元日から「十年日記」を愛用し、現在3冊目。23年目を歩んでいる。元日には、新年度の経営目標と方針を掲げ、月末には、進捗状況を確認し次月以降に実践する。毎日欄を三区区分し、今日の歴史(今日の出来事)。今日の言葉(学んだこと、教訓、原理原則)を記し、常に読み返して指針とする。最後は今日の評価で締める。

今日を反省し、評価点をつける。人間関係の反省、自己反省を率直につける。日記は、自己発見、自己創造、自己実現の鏡だと思う。十年前の自分を知り、今日に活かす。自分づくりは、自分でしかできないことを日記の継続が教えてくれる。継続が力を生み、力は継続を育てることの価値をも学んだ。

「日日是人生」とは、毎日、毎時間を大切にし、時間価値を活かす生き方でもある。時間は、再生不能の財産であることを学んだ。

(2)「人生是経営」とは、人生舞台での自己実現をいう。一度きりの人生を自力で拓く意志をもつ。これが前提。人生経営のポイントは、理想とする人生目標をもつ。その目標に全身全力で努力する。努力とは、素晴らしい能力である。努力を注ぐポイントを誤ってはならない。

「自己発見」「自己創造」「自己実現」の3つのポイントが、人生経営の三大要素だと提言したい。①自己発見には、自己と信頼できる他者の複眼が必要。まず、自分の目。寝食を忘れてでも没頭できる好きなことは何ですか……。この質問への回答に戸惑うヒトが多い。特にありません。困りましたネーと、ご本人が困惑している。

いま、働き方改革が社会テーマになっている。その本質は、「自己発見」「自己創造」「自己実現」の人生経営の三要素からの発想が不可欠。働き方改革とは、人生経営改革に等しい。

②自己創造とは、自分づくりである。自分づくりは、自分でしかできない。これが基本である。但し、それは一人ぼっちの暗い孤独感ではない。克己心に裏づけられた努力の気迫が輝いている。その熱気は、周囲の雰囲気を変える。やがて、協調者、同調者が現れ組織に活力が生れる。自己創造とは、自分づくりは、自分でしかできないという覚悟から生れる努力姿勢である。周囲は、その姿勢に共鳴する。

③自己実現とは、成就感、達成感、満足感である。人生は自己実現の旅だと思えてならない。自己の可能性を見つけ、努力し、達成し、実現するために自己を創造する。「自分づくり」こそ人生そのものであり「人生経営」だと考える。

3 おわりに当たってのメッセージ

筆者は、平成15(2003)年5月～平成18年4月の3ヵ年間、春秋7回に分けて四国八十八ヶ所の歩き遍路を実践。結願から11年余を経過した今、妻と歩いた1400キロは、人生経営の縮図であり貴重な記憶資産となった。発願の動機は妻からの提案。かねて習っていた写経を般若心経に纏め納経したい。この提案に賛同して、職務をセミリタイヤー。時間を創造してアスレチックジムに入門、歩き遍路に備えた。歩いて歩いても遠ざかる室戸岬の景観。足摺岬での台風通過。心のこもったお接待の一つひとつに人間を学びました。年明けの平成30年1月には傘寿を迎えるに際し、本年一杯で現役引退を決めました。三栄会だよりを通して、「一字千理」「経営四字熟語」等を執筆して参りましたが今号が最後となりました。吉田典生社長とも語り、今回は、締めくくりの意味をもこめて「人生経営」を掲げました。日日是人生。人生是経営。経営是創造の連語は筆者の経営信条でもあります。繁栄を祈ります。

(おわり)

著作権法の「職務著作制度」について

赤澤特許事務所
〔三和化工(株)顧問〕

副所長・弁理士 宮澤 岳志
Takeshi Miyazawa

はじめに

会社の従業員は、日常的にいろいろな提案書・報告書・レポートなどを作成していることかと思えます。これらの多くは著作権法が定める「著作物」に該当します。著作物を実際に創り出すことができるのは思想や感情を持つ自然人、すなわち、「生身の人間」です（著作物を「AI」が創り出す……という話はありますが、今回は気にしないで下さい）。

ところが、著作権法では、「特定の著作物に関しては、法人その他使用者（以下「法人等」という）を著作者とする。」という制度を設けています。この制度を、「職務著作制度」といいます。

職務著作制度は、会社等の従業者などにとっても身近な制度であるはずなのに、あまり知られていないように思います。今回は、職務著作制度をすこしでも知っていただくために、その概要を説明させていただきます。

職務著作制度の概要

職務著作制度は、著作権法第15条に基づきます。第15条第1項は、「法人等の発意に基づきその法人等の業務に従事する者が職務上作成する著作物で、その法人等が自己の著作の名義の下に公表するもの著作者は、その作成の時にける契約、勤務規則その他に別段の定めがない限り、その法人等とする。（一部省略）」と定めています。

第15条が言いたいこと、つまり職務著作制度とは

どんなものであるかをザックリと言ってしまうと、「法人等に「著作者」の地位を与えてしまう仕組み」です。

知的財産法には著作権法だけでなく特許法や商標法等いろいろありますが、専門家の私からみても、著作権法において定めた職務著作制度は実に驚くべき大胆なものであると思うのです。

といいますのも、職務著作制度は、「法人等に「著作権」が帰属する。」とは直接的に定めていないのです。職務著作制度は、「（実際には従業員が作成したから従業員が著作者のはずだけど、）法人等に「著作者」の地位を与えることにする。」と定めているのです。

例えば、特許法において職務発明制度がありますが、法人等に「発明者」の地位を与えるという定めなどありません。

「著作者」の地位

著作権法では、「著作者の地位が誰にあるのか？」がとても重要なのです。その理由は、第17条において、「著作者は著作権並びに著作者人格権を享有する。」と定めているからです。（ちなみに、著作権は移転可能な財産的な権利であり、著作者人格権は移転できない人格的な権利です。）

従業員が作成した著作物が職務著作制度の条件に該当した場合には、法人等が著作者になります。その結果、法人等に著作物に対する著作権・著作者人格権が帰属することになります。

「職務著作制度」なぜあるの？

個性的な職務著作制度はなぜ設けられたのでしょうか。主な理由は二点です。

一点目は、職務上作成される著作物に関して、その作成に伴うコストを負担したり、その創作に係るリスクを負担したりするのは法人等であるからという理由です。コストやリスクを負担するという法人等の立場を考えれば、著作者を法人等にさせる法制度が理にかなうのかもしれませんが。

二点目は、従業員が生み出した著作物における著作者を法人等にさせれば、日々大量に発生する著作物について、いちいち権利の所在等について確認する手間がかからず便利であるという理由です。会社内において著作物は日々大量に発生するものですから、著作者を法人等させる制度は著作物の円滑な利用を促進できるものとなるため理にかなうのかもしれませんが。

著作者が法人等になる要件（第15条）

職務著作制度の根拠となる第15条第1項の5つの要件について確認したいと思います。

(1) 著作物が法人等の発意に基づいて作られたものであること。

著作物が法人等の発意に基づいて作成されたものであることです。著作物の作成の意志が直接又は間接に法人等の判断にかかっているような場合であれば、この要件に該当いたします。

(2) 法人等の業務に従事する者が作成したものであること。

法人等の業務に従事する者が作成した著作物であることです。一般論としては、雇用関係にある従業員・会社役員などが該当し、アルバイトによる労働者は該当しないと考えられています。

(3) 従業者が職務上作成した著作物であること。

従業者が職務上作成した著作物であることです。従業者が自分に与えられた仕事として著作物を作成すれば、職務上作成した著作物に該当いたします。

(4) 法人等が自己の著作の名義の下に公表する著作物であること。

法人等が自己の著作の名義の下に公表する著作物であることです。例えば、著作物の表紙、裏面、その他奥付などに、「制作著作：〇〇株式会社」という表示があればこの要件を満たすでしょう。

(5) 著作物の作成時にける契約等において別段の定めがないこと。

著作物の作成時にける契約、勤務規則その他において、従業員を著作者とする等の別段の定めが存在しないことです。事前に契約があれば、その契約で形成された当事者の意思を尊重して判断することになります。

さいごに

職務著作制度の概要をご理解いただけたでしょうか？ 職務著作制度は、法人等に著作者の地位を与えるという実にダイナミックな制度であると思いませんか？ 本稿が、職務著作制度、ひいては著作権法に興味をもっていただくきっかけとなれば幸いです。

以上

内外国特許・商標・意匠・実用新案

赤澤特許事務所
AKAZAWA PATENT AGENCY

所長・弁理士 赤澤 一博
副所長・弁理士 宮澤 岳志
弁理士 青山 高明

各種手続に要する費用等については、個別に見積書をご提示させていただきます。ご希望の場合は、お申し付け下さいませ。概算価格のご提示も可能です。

- 見積りの例
- 特許、実用新案、意匠、商標に関する各種手続の見積
 - 外国への特許、意匠、商標に関する各種手続の見積
 - 特許権や商標権の移転登録手続に関する見積
 - 先行技術調査(国内調査または外国調査)に関する見積(その他、ご要望に応じて必要な見積書をご用意いたします。)

アポイントメントは京都本部にお願い申し上げます。速やかに対応いたします。

〔京都本部〕
京都市中京区烏丸通六角上ル
饅頭屋町617 六角ビル6F
TEL:075-223-6206
FAX:075-223-6207

〔東京プランチ〕
東京都港区高輪三丁目
8-306

www.tokkyo.ne.jp



明和産業株式会社

http://www.meiwa.co.jp/

〒100-8311 東京都千代田区丸の内三丁目
3番1号 新東京ビル3階
TEL. 03-3240-9011 FAX. 03-3240-9561



本店 合成樹脂本部 第二グループメンバー
後列左から堤 大武、水上善博GM、
安藤賢一（合成樹脂本部 副本部長兼第一グループ GM）、
増田剛大、前列左から妻沼、梨本、塩野、松山

Meiwa (Thailand) Co., Ltd. 仕事風景
右側奥 President 酒井伴行、右側手前 堤 大武、
現地スタッフ

はじめまして。明和産業株式会社 合成樹脂本部合成樹脂第二グループの堤大武と申します。

この度は『京FOAM』創刊に伴い、弊社を会社紹介第一号として寄稿させて頂きまして、誠に有難うございます。

私が所属する合成樹脂第二グループは主に樹脂原料とフォーム製品を中心に扱っており、設立当時の優良な樹脂原料メーカー、製品加工メーカーと顧客の間に立ち、商社機能を発揮し原料供給から、加工設備技術、ならびに製品の市場開拓までのトータルコーディネーターとして、事業の運営を行っております。その中でも、フォームプラスチック事業は六十余年に渡る経験と実績を基盤に、各地区の加工工場と密接な協調を図り、製品の用途開発と販売に実績を挙げてきました。

1985年には中国江蘇省常州市に三和化工(株)様および現地ローカル包装メーカーとの三社合併による高発泡PE生産会社『蘭和塑料』(現・常州三和塑胶有限公司)を設立するなど、三和化工(株)様とは国内のみならず、海外においても積極的に展開をさせて頂きました。

弊社の貿易取引について、自由圏諸国はもとより、社会主義諸国との貿易にも多大の実績を誇っております。

す。これまで培ってきたノウハウを基に、現在はASEANを中心とした海外展開を推進しており、設立当初から有する中国、ベトナムの拠点に続き、2015年にはタイ・インドネシアに現地法人を設立致しました。当グループにおいても、フォーム製品の拡販および加工拠点の拡充を図り、ASEANにおける優良な原料メーカーと取組み、日本向けに輸入原料の拡販の強化を行っております。

当グループは、若く勢いのあるチームであり、日々皆様のご要望にお応えすべく精進して参りますので、今後とも皆様のご愛顧のほど宜しく御願ひ申し上げます。

末筆ながら、三和化工(株)様の今後益々のご躍進のほどご祈念申し上げます。

□ 会社紹介

弊社は戦後の財閥解体の影響を受けた旧三菱商事から、1947年7月に同社化成品事業部が独立してできた会社であり、本年で創立70周年を迎えました。70年の歴史の中で、化学品、合成樹脂、石油製品、機能材料、建材などの事業領域で活動し、今日に至ります。

IPF INT'L PLASTIC FAIR

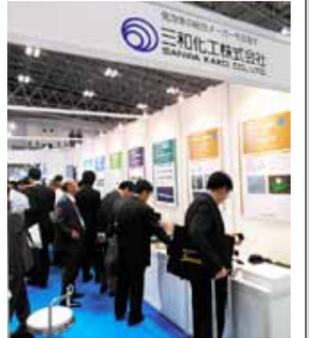
JAPAN 国際プラスチックフェア

http://www.ipfjapan.jp

日時/2017年10月24日(火)～28日(土)
10:00 - 17:00 [最終日16:00終了]

会場/幕張メッセ 入場料金/1,000円(5日間有効)
※インターネットによる事前登録者は無料

期間中はブース小間番号
➔ 51915 でお待ちしています。



前回の展示会風景

高機能プラスチック原料・ 添加剤・フィラー類	ゴム原料・ 成形システム類	リサイクル資源・ システム類
プラスチック成形機・ 成形関連システム類	コンポジット材料・ 成形システム類	プラスチック&ゴム 試作・加工・製造受託類
プラスチック&ゴム 金型設計製造システム類	発泡プラスチック類 (発泡・成形)フォームタイムス類	プラスチック&ゴム 工業部品関連類

会場へのアクセス

専用シャトルバスを運行します。
(約10分間隔、東京駅から徒歩7分)
京橋エドグラン 片道500円 幕張メッセ 約60分

電車でお越しの場合
京橋駅(有楽町線) 徒歩約5分
幕張メッセ

空港からお越しの場合
成田空港 徒歩約40分 幕張メッセ中央
羽田空港 徒歩約60分 幕張メッセ

編集後記 — 柴田 智良(営業本部ここ掘れプロジェクト推進室 室長)

45年に亘り『三和の歩み』『サンフォームニュース』『サンベルカニュース』『三栄会だより』と名称・コンセプトを変えながら発刊を継続してきた当社の情報発信誌、今回新たに『京FOAM』としてスタートしました。歴代の情報誌を師と仰ぎ、また新たな発信内容・方法にもチャレンジし継続してまいります。どうぞご期待下さい。

編集メンバー — 柴田智良 / 新沢耕一 / 水野洋平 / 吉田龍平